



ぶらり散策 インタビュー

奈良国立博物館 Nara National Museum



中村 恵
教育学部学校教育教員養成課程3回生
奈良県立奈良高校出身
学生広報スタッフ「なっきょん's CLUB」



奈良国立博物館 西新館



西山 厚 (にしやま あつし)
奈良国立博物館 学芸部長

京都大学大学院文学研究科博士課程修了
大学時代は、仏教の歴史や思想を研究。
「鎌倉仏教」「女性と仏教」など数多くの特別展
を企画されている。

奈良教育大学から北へ、東大寺へ向かうように15分ほど歩くと、奈良公園の落ち着いた雰囲気の中に溶け込むようにして重厚な建物が現れる。そこが奈良国立博物館だ。奈良国立博物館は「仏教美術」と「奈良」をテーマに調査研究として展示活動をおこなっている。

本館と仏教美術資料研究センターの2つの建物は国の重要文化財に指定されており、本館では平常展としてさまざまな日本の仏像やその源流ともいうべきインド、中国、そして朝鮮半島の仏像がいつも展示されている。また、新館は特別展会場で、仏教美術をテーマにしたいろいろな特別展を開催することで知られるが、毎年秋には正倉院の宝物を展示する「正倉院展」が開かれ、全国各地、世界各国から多くの人が訪れることも有名である。

今回は、今注目の仏像、カール廣瀬郁実さんの著書「仏教の本」の監修をされ、また本学でも専門科目「正倉院の書跡」にて教壇に立たれている、奈良国立博物館学芸部長の西山厚さんを訪ねた。



修会もやりました。短い研修時間の中でいろいろな話をしてもらったぶんあまり印象に残らないと思うので、大仏さまを中心に話をしています。大仏さまは頭の部分と体の部分の様子が違う。顔はつやつやしているのに、体にはつやがない。それは、造られた時期が違うからです。これは、数々の焼損などにより作り直されてきたからです。

子どもであっても大人であっても同じ内容の話しをします。なぜ大仏は造られたのか。どういう思いがそこに込められているのか。「大事なことは、小さな子どもにも伝えなければなりません。「大事なことは、わかりやすいので幼稚園児であっても理解してくれれます。

奈良国立博物館は恵まれています。その信用で日本中からだけでなく海外からもテーマにあわせて数々のすばらしいものを拝借し展示させていただくことができます。そういう職場で、そういう仕事をさせていただいて、素晴らしいものがあることを先に知ることができて、だからこそ、それを多くの人々に伝えていかねばなりません。それが私の使命だと考えています。

今年の正倉院展(10月24日～11月12日)で注目されている宝物は何ですか。

今年、天皇陛下の御即位20年の記念すべき年なので、例年より3日間会期を延長して20日間開催します。また、宝物も例年より目玉になるものが多く充実しています。あまりにも充実しているので、関心のある方は疲れてしまうかもしれませんね(笑)

学芸員というと、展示と解説というイメージが浮かぶのですが、実際はどのような仕事内容なのでしょうか。

学芸員の仕事は、大きく4つに分かれます。まず「調査研究」、そして「展示公開」「教育普及」、最後に「修理保存」です。

展示をするためには、それがどういうもので、どういう価値があるのかを明確に知る必要があります。そうでなければ展示ができないのですから、そのために調査研究がまず必要です。

でも展示公開しても見に来てくれた人になかなかわかってもらえない。だからわかってもらう工夫が必要になります。それが「教育普及」です。わかりやすい解説をつけたら、音声ガイドを用意したり、展示会の会期中に講座を開催したり。海外の博物館には日本のような詳しい解説はありません。日本人は解説をじっくり読んで、チラッと展示物を見る(笑)

日本には古いものがたくさんあります。1200年以上も前のものが発掘品ではなくて多く残っているのは世界中で日本だけです。日本人は古いものが好きで大事にする民族です。古い時代に造られたものは必ず修理されています。修理するのは、それが大事だからです。修理にかかるお金と労力は相当なものです。それでも修理する。そんなふうにいるいろいろな時代の人々に大切にされて今に伝わってきた。古いものは古いから大事なのではなくて、実は古いものほど出来がいいのです。私たちもまた次の時代にそれらのものを伝えていく必要があります。

私が一番楽しみにしているのは、光明皇后が書かれた『楽毅論』です。来年は、光明皇后が亡くなって1250年の年にあたります。関係のお寺では盛大な法要がなされます。おそらく今年から来年にかけて光明皇后ブームがくるでしょう。今年の正倉院展は、その出発点になるはずですよ。

正倉院宝物は、聖武天皇が大事にされていた物を、天皇が亡くなられたあと光明皇后が大仏に献納したこと始まりです。天皇の遺品をすべて献納された皇后は、後にも先にも光明皇后しかいません。ではなぜそのようなことをしたのでしょうか。何か特別な理由があるに違いない。実は、御本人がその理由を記しておられるのです。それは、悲しみに耐えられなかったから。聖武天皇が大切にしておられたものには、ふたりの思い出がいっぱい詰まっています。目に触れると心がぐずぐずしてしまうと光明皇后は書いておられます。だから、正倉院展で宝物を見るときには、ただ奈良時代のものだとか、きれいだとかだけじゃなくて、光明皇后が悲しみに耐えられなくて手放したものだという想いでみてほしい。すると宝物が違ってみえてきます。

奈良教育大学の学生にメッセージを

全国各地からせっかくならやってくる4年間を過ごしても、奈良の本当の良さを知らずに学生生活を終える学生は多いと思います。教員になったならば、伝えなければならぬ奈良の素晴らしさをまったく知らずに終わってしま

「教育普及」ということですが、私は幼児教育専修で、子どもたちに奈良の歴史や歴史を伝えていくこともあると思います。いろいろな方を相手に解説や講習をされていると思いますが、子どもたちに伝えていくために何かされていることはありますか。

奈良国立博物館は展示会の案内を幼稚園にまで配布しています。そのようなことをしているのは、全国で奈良国立博物館だけだと思います。

私は、3歳になればどんな深いことも理解できると考えています。なので「3歳から115歳まで同じ話をする」というようにしています。「115歳」というのは現在の世界最高齢らしいのでそういうキャッチフレーズにしています(笑)

奈良では8世紀の木造建築が今も使われています。こんな場所は世界で奈良だけですよ。そのほかにも奈良には本当に素晴らしいものがある。でも、奈良の人たちは、奈良のことを知らない。それが残念です。

奈良の素晴らしさを、多くの人に伝える必要があると思います。そこでまず小学生に伝えようとして昨年「世界遺産学習」として奈良市の全小学校48校の5年生に奈良国立博物館に来てもらう取り組みを行っています。講堂で30分話をし、展示室で30分すごす。この60分間で奈良を大好きにならうのです。もしかするとその子にとって奈良国立博物館に来るのは、一生で最初で最後かもしれない。まさに60分一本勝負です。そして子どもたちだけではだめ。先生にも伝えなければなりません。ですから、先生の研修もここでやっています。校長先生の研

うのは、もったいないだけでなく、許しがたいことだと思います(笑)

たとえ先生にならなかつたとしても、それぞれの職場や友人、家庭などで、奈良もっている本当の価値を伝えていってもらいたいし、伝えていくのに十分価値する価値が奈良にはあると思います。

奈良教育大学も「キャンパスメンバーズ」という制度に加入してもらっているのですが、学生証を提示するだけで奈良国立博物館の平常展なら無料で、特別展も割引料金で見られるなど、たくさんの特典があります。奈良国立博物館にもっとも近い大学なのだから、もっと教育大生に足を運んでもらいたい。東大寺、春日大社、興福寺や新薬師寺など、お寺や神社にもっともと出かけてもらいたい。奈良に在る間に人生を変えてしまおうような何かを感じてもらいたい。すばらしい4年間にしてほしいですね。

第61回 正倉院展
2009年 10/24(土)～11/12(木)

年に1度行われる、通常非公開の御物の特別展示。宝物には聖武天皇遺愛の品や、東大寺の法会に使用された法具など中国の珍器、ペルシャ、インドの工芸品なども含まれ、国際色、種類ともに豊富です。

奈良国立博物館へのアクセス
【徒歩】近鉄奈良駅下車 登大路町を東へ徒歩約15分
【バス】JR/近鉄奈良駅より市内循環バス外回り「水室神社・国立博物館」バス下車すぐ